



何のために生まれて何をして生きるのか

昨日は名古屋城が一望できる、とても美しいホールで講演会をしてまいりました。

名古屋市の教育長をはじめ、他の都道府県からも教育長、指導主事、校長先生や教頭先生など多数の管理職、そして、幼稚園・小学校・中学校・高校・大学など現場の先生方が100名以上参加された会です。

イベント名は、「未来の教育を考える会」。

そこで、私は今回の日間賀島での宿泊体験のことを語ってきました。

会場にいた方々は、驚いていました。

驚きを乗り越えて感動されていた方々も大勢いました。

私が話し終えてから、次から次へと名刺交換に来られる方々の長蛇の列がそれを物語っていました。

4-1のみんなが、自分たちの力で問題を解き、電車に乗り、チケットを買って船に乗り、島民の方に聞き込みをしながら民宿を目指した今回の宿泊体験は、すでに多くの方々に「感動」を与えています。

以前、教室で次のことを伝えました。

みんな、どれくらい覚えているでしょうか。

「なんのために生まれて なにをして生きるのか
こたえられないなんて そんなのはいやだ！」

有名なアンパンマンの主題歌の歌詞です。

小さいころから何度も耳にしてきたこの歌詞には、作者のやなせたかさんの生涯がつまんでいると言われていています。

「何のために生まれて、何をして生きるのか」

文章として改めて読んでみると、小さい子たちに向けるメッセージとしては中々重たい印象を受けます。

でも、こうした「目的意識」は年齢に関係なく重要であることを、教師として勤め続ける中で年々感じるようになってきました。

どこを目指して進んでいるかが分からなければ、道に迷った時に右往左往します。

一方、目的地が明確になっていれば、少々の困難にもめげることはありません。

「何のために生きているのか」という根源的な問いは、まさにそのゴール地点こそが大切であることを我々に教えてくれている気がします。

歌詞には、次の言葉もありました。

なにがきみのしあわせ なにをしてよろこぶ

人は、幸せになるために生まれてくると言います。

やなせさんだけでなく、世界中のあらゆる哲学者や偉人たちが口をそろえて言っています。

「人は幸せになるために生まれてくる」と。

でも、どうすれば幸せになるのかは意外と明確に語られることが少ないように思います。

「幸せはひとそれぞれだから」といえばそれまでですが、目的地と同じくらい、どうやればそこに辿り着くかという「道のり」も大切です。

どのように進めば、「幸せ」というゴールにたどりつくか。

もういちど、やなせさんの言葉をかりてみます。

人間が一番うれしいことはなんだろう。長い間、ボクは考えてきた。そして、人間が一番うれしいのは、人間を喜ばせることだということがわかりました。

アンパンマンの仕事は、ずーっと変わりません。

「おなかのすいたひと、こまったひとをたすける」



人の最大の喜びは、貰うでも出来るでもなく“与える喜び”だといいます。学校で勉強する意味も、この部分に大きくかかわっていると言えるでしょう。

沢山の言葉を覚えたら、その言葉を贈って人を喜ばせることができます。計算や運動ができるようになれば、その力を使って誰かの役に立てます。歌を歌うことも絵を描くこともそうです。自分の人生で出会うたくさんの人を喜ばせ、幸せになる為に勉強はあるのだと思います。

これを、第1クォーターの初めに伝えました。

今、みんなは出会った人たちを確かに喜ばせ、驚かせ、感動させられるようになってきています。

その生き方を続けていけば、必ず幸せになります。

昨日の名古屋での講演を終えて、ふとそんなことを思い浮かべました。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcipcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

